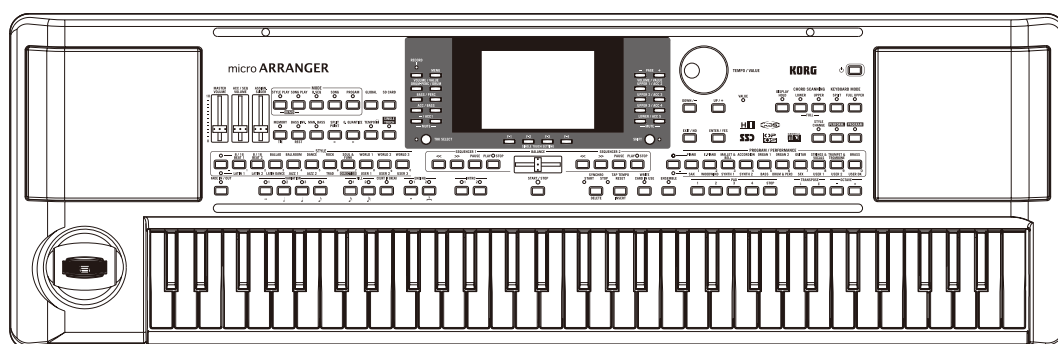
micro ARRANGER

professional arranger

クイック・スタート・ガイド

Styles

8/16 Beat 1	*8/16 Beat 2*	*Ballad*	*Ballroom*	*Dance*	*Rock*	*Soul & Funk*	*World 1*	*World 2*	*World 3*
Soft Beat	Guitar Bld1	Groove Bld	Slow Pop	HouseGarage	Open Rock 1	Rubber Funk	OberkrWaltz	Bluegrass	Hora
Pop Beat	Guitar Bld2	Diva	Slow Rock 1	House	Open Rock 2	Groove Funk	OberkrPolka	Country 8Bt	Sevillana 1
Stndrd8Beat	8Bt Analog1	RockBallad1	Slow Rock 2	Dream	Pop Rock	Acid Jazz	Bavar.Pop 1	Country16Bt	Sevillana 2
Unplug8Bt 1	Analogyst	Folk Ballad	Unpl.SlRock	Techno	Fire Rock	Double Beat	Bavar.Pop 2	CountryBeat	Jota
Love 8 Beat	8Bt Analog2	PopBallad 2	BigBnd Fox1	Underground	Hard Rock	Groove	Party Polka	Mod.Country	Copla
Half Beat	Trendy Beat	HalfTimeBld	Slow Waltz1	Progressive	Heavy Rock	Jazz Funk	Pop Polka	CntryBoogie	Classic 3/4
UK 8 Beat	Slow Ballad	CountryBld1	Slow Waltz2	Jungle	RockShuffle	Al Swing	Flipper 6/8	CountryShf1	Bolero
8BeatGroove	6Strings Bt	4/4 Ballad	Foxtrot 1	Rap	Rock Ballad	HipHop Funk	Flipper 4/4	CountryShf2	Minuetto
UK RnB	Std 16Beat 1	Love Ballad	BigBnd Fox2	Hip Hop	Half Time	HipHop Soul	Schlager 1	CountryBld2	Baroque
PopBallad 1	Std 16Beat 2	NaturalBeat	Slow Fox	Disco 70	Rock 6/8	MotownShufl	Schlager 2	Country 3/4	New Age
HipHop Beat	Unpl.16Beat	Celtic Bld	Foxtrot 2	80's Dance	Abbey Road	PopBallad 4	Schlager 3	Orleans	Tarantella
LightRock 1	Pop 16Beat1	16BtAnalog1	Operetta	Love Disco	Surf Rock	RhythmBlues	Schlager 4	Jig	Raspa
LightRock 2	Pop 16Beat2	Color Beat	BigBnd Fox3	Disco Party	Pop Shuffle	Soul	PopSchlager	CelticDream	Vahde
Miami Beat	Cinema Bld	PopBallad 3	Charleston	Disco Funky	BluesShuffl	Memphis	Trucker	Norteno	Oriental
ClassicBeat	Windy Beat	8Bt Analog3	Quick Step	Disco Gully	60's Rock	Motown	Cajun	Quebradita	Roman
Unplug8Bt 2	Home Beat	16BtAnalog2	New Jive	Twist	Rock & Roll	Gospel	Zydeco	Tejano	Ciftetelli

Latin 1	*Latin 2*	*Latin Dance*	*Jazz 1*	*Jazz 2*	*Trad*	*Direct SD*	*User 1*	*User 2*	*User 3*
UnplugBossa	Engl. Tango	Samba	Jazz Brush	Big Band 3	Ital.Valzer		Foxtrot 3	16Beat John	Soul 2
Basic Bossa	Orch. Tango	Sambalegre	Med. Swing	Sw. Shuffle	Valzer		Hully Gully	8 Beat John	Boston Boy
L.A. Bossa	Tango.it	Disco Samba	Slow Swing	FastBigBand	GermWaltz 1		Mazurka 3	2Bt Country	6/8 JazzPop
New Bossa	Habanera 1	Samba Funk	SwingBallad	LatinBigBnd	GermWaltz 2		Polka 3	Bajon	J-Pop
Miss Bossa	Habanera 2	Merengue 1	JazzWaltz 1	BigBnd Fox4	Laendler		It. Valzer2	Ipanema	HipHopFunk2
Lite Bossa	Mambo 1	Merengue 2	JazzWaltz 2	Dixieland	WalzMusette		Slow Waltz3	SanbaDeSol	Schuffle
GrooveBossa	Mambo 2	Cumbia	5/4 Swing	Hollywood	ViennaWaltz		Trad.Bolero	Ricky	Jazz Funk 2
DiscoChaCha	Salsa 1	Latin Dance	Mood Swing	Broadway	Viennese		NewBeguine	Mambo 99	Blues
Cha Cha Cha	Salsa 2	Batucada	Be Bop	Acid Jazz	Mazurka 1		SchlagerMx1	PopShuffle2	6/8 Swing
Sabor	Mariachi	Rumba	Unpl.Swing1	New Jazz	Mazurka 2		SchlagerMx2	Front Beat	The Avalon
ChaCha Funk	Reggae 1	Gipsy	Unpl.Swing2	Latin Jazz	Polka 1		Dance Mix	Long Train	6/8 R & B
Latin Rock	Reggae 2	Rumba Pop	B.BndBallad	Fusion	Polka 2		Soca Dance	2000 Hits	Groovin'
UnplugLatin	Reggae 3	Calypso	BigBandMed.	Ragtime Pno	Germ. Polka		60's Dance	Questions	90's Funk
Beguine 1	Pasodoble 1	Lambada	Big Band 1	Shuffle Pno	Trad. Polka		70's Disco	8BeatRock1	Party Funk
Beguine 2	PasDobBanda	Meneito	BigBand40's	Boogie Pno	Marsch		Motown 2	8BeatRock2	6/8 Blues
Slow Bolero	Pasodoble 2	Macarena	Big Band 2	Bossa Pno	FrenchMarsc		Dance 80	L.A. R & B	Fusion Funk

Ⓙ①

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の２つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⃠記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性があります

- **ACアダプターのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。**
- **ACアダプターのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
  感電やショートの恐れがあります。
- **本製品はコンセントの近くに設置し、AC アダプターのプラグへ容易に手が届くようにする。**

- **次のような場合には、直ちに電源を切ってACアダプターのプラグをコンセントから抜く。**
  ○ ACアダプターが破損したとき
  ○ 異物が内部に入ったとき
  ○ 製品に異常や故障が生じたとき
  修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。

- **本製品を分解したり改造したりしない。**

- **修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。**
- **AC アダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、AC アダプターのコードの上に重いものをのせない。**
  コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
  大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**

- **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**

- **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**

- **雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。**
- **本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。**
- **本製品に液体をこぼさない。**

- **濡れた手で本製品を使用しない。**

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります

- **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- **ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。**
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
  本製品をテレビ等の横に設置すると、本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因となります。
- **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**
- **ACアダプターをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。**

- **長時間使用しないときは、AC アダプターをコンセントから抜く。**

- **付属のACアダプターは他の電気機器で使用しない。**
  付属のACアダプターは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- **他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。**
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- **スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。**
  故障の原因になります。
- **外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。**
- **不安定な場所に置かない。**
  本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- **本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。**
  本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- **本製品の隙間に指などを入れない。**
  お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

LCD ディスプレイについて

本製品の LCD ディスプレイは、非常に高い技術で作られた精密機器であり、品質には十分に注意を払っておりますが、次の内容については、LCD ディスプレイの特性から生じる状態であり、故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- 画面の一部に黒点(点灯しない点)や輝点(常に点灯する点)がある。
- 表示内容によっては、画面の明るさにムラが生じる。
- 表示内容によっては、横縞の陰が見える。
- 表示内容によっては、ちらつきやモアレを生じる。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータはバックアップをとってください。またデータの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

著作権について

目次

はじめに 1
- ネットワーク・リンク 1
- 取扱説明書について 1

スタート・アップ 1
- AC アダプター、電源コードの接続 1
- 電源を入れる、切る 1
- ボリューム(MASTER、ACC/SEQ、ASSIGN. SLIDER)のコントロール 2
- [BALANCE]スライダー 2
- ヘッドホン端子 2
- オーディオ出力 2
- オーディオ入力 2
- MIDI 接続 2
- ダンパー・ペダル 2
- デモ・ソング 2
- 譜面立て 2

フロント・パネル 3

画面とユーザー・インターフェース 9
- 画面操作 9
- インターフェースの構造 10
- メッセージ・ウィンドウ 11
- 記号とアイコン 11
- グレー表示のパラメーター 11

リア・パネル 11

基本操作 12
- キーボード上での演奏 12
- トラックの選択、ミュート設定と解除、ソロ設定と解除 12
- パフォーマンスの選択 13
- プログラムの選択 13
- スタイルの選択 14
- シングル・タッチ・セッティング(STS)の選択 14
- キーボード・トラックの一括変更 14
- スタイル、パフォーマンス、プログラムの入った元のバンクを表示させるショートカット 14

チュートリアル 15
- スタイルの演奏(自動伴奏) 15
- リアルタイム演奏(自動伴奏なしの演奏) 16
- ソングの録音(スタイルとリアルタイム演奏を同時に録音) 18
- ソングの再生 19

主な仕様 20

1. はじめに

コルグ・プロフェッショナル・アレンジャーmicroARRANGERをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本機はイメージに合ったスタイルを選び、コードを弾くと高品位なバンド演奏が生成されるので、あとはメロディを弾くだけで簡単にオリジナル・ソングができる作曲支援に最適なキーボードです。

ネットワーク・リンク

コルグでは、本機の情報を以下のサイトで提供しています。

オペレーティング・システムの最新版やさまざまなシステム・ファイル(たとえば、ファクトリー・データのバックアップなど)は、以下のサイトにあります。

http://www.korgpa.com/

このサイトは、英語で表示されます。お問い合わせするときも英語のみになりますので、ご了承ください。また、このサイトには日本未発売の製品情報も含まれています。

英文の取扱説明書のPDFは、上記のサイトからダウンロードすることができます。

取扱説明書について

取扱説明書は、本紙「クイック・スタート・ガイド」と付属のアクセサリー・ディスクに含まれるさらに詳しいPDFの取扱説明書があります。

PDFの取扱説明書は、次の3つのセクションに分かれています。

- **Basic Guide**:操作方法をひととおり説明した、実践的なガイドです。
- **Reference Guide**:各ページ画面とパラメーターについて詳しく説明しています。
- **Appendix**:データ・リストやトラブル・シューティングなど役立つ情報が載っています。

クイック・スタート・ガイドやPDFの取扱説明書では、以下のような省略マークが使われています。

▸PERF　“WRITE” ボタンを使用して、パフォーマンスに保存できるパラメーターです。

▸STYLE　“WRITE” ボタンを使用して、現在のスタイル・パフォーマンスに保存できるパラメーターです。

▸STS　“WRITE” ボタンを使用して、Single Touch Settingに保存できるパラメーターです。

▸GBL　Global Editモードでの設定時に[WRITE]キーを押して、グローバル設定に保存できるパラメーターです。

2. スタート・アップ

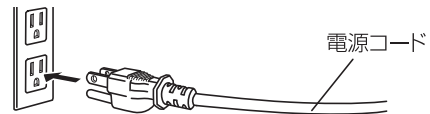
ACアダプター、電源コードの接続

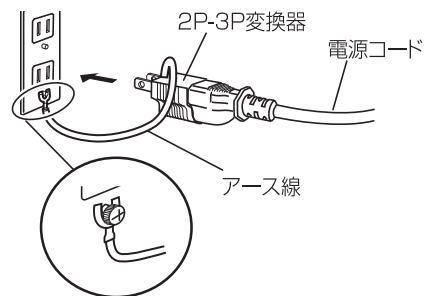
1. 付属のACアダプターを本機リア・パネルの[DC 12V]端子に接続します。

   Note:ACアダプターは必ず付属のものをお使いください。他のACアダプターを使用した場合、故障などの原因となります。

2. コンセントにACアダプターの電源コードを接続します。
   感電と機器の損傷を防ぐために、アース接続を確実に行ってください。

   Note:電源は必ずAC100Vを使用してください。

   接地極付きコンセントに接続する場合
   接地極付きコンセントにACアダプター用電源コードのプラグをそのまま差し込んでください。

   アース端子付きコンセントに接続する場合
   ACアダプター用電源コードのプラグに、2P-3P変換器を取り付けます。そして、コンセントのアース端子にアース線を接続し、2P-3P変換器のプラグを差し込みます。

   警告:アース接続は、コンセントにプラグを差し込む前に行ってください。また、アース接続を外すときは、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

   2P-3P変換器のアース線のU字端子にカバーが付いている場合は、カバーをはずして使用してください。

電源を入れる、切る

電源を入れる

- フロント・パネル右上にある電源キー(⏻)を押します。
  LCD画面には起動時の画面が表示され、しばらくするとStyle Playモードのメイン・ページの表示に変わり、音が出る状態になります。

電源を切る

- フロント・パネル右上にある電源キー(⏻)を押して本機の電源をオフにします。

  Warning:本機の電源をオフにすると、RAM内のすべてのデータ(ソング編集データ)は消えてしまいます。
  SSDメモリーに含まれるデータ(ファクトリー・データ、User データ)とサンプルは保存されます。

   CARD IN USEインジケーターが点灯中は、絶対に電源を切らないでください。

オート・パワー・オフ機能について

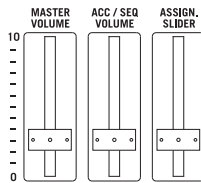
本機は工場出荷時の設定で 4 時間以上鍵盤を弾かない場合や、本体のボタンを操作しないと、自動的に電源が切れます。この機能は解除 (No) にすることもできます。

ソングやデモ・ソングの再生のみで 4 時間経過した場合も、自動的に電源が切れます。

機能を切り替えるには、[GLOBAL] キーを押して GLOBAL モードに入り、Page1-Gen. Controls ページで設定します。

ボリューム(MASTER、ACC/SEQ、ASSIGN. SLIDER)のコントロール

- [MASTER VOLUME]スライダーで本機の全体の音量を調節します。このスライダーは、内蔵スピーカー、出力端子(OUTPUT)、そしてヘッドホン端子(PHONES)の音量を調節します。

  Note:まず、中程度のレベルから調節を始めてください。徐々に[MASTER VOLUME]スライダーを上げます。大きな音量で長い時間使用しないでください。
- [ACC/SEQ VOLUME]スライダーでスタイル・トラック(ドラム、パーカッション、ベースなど)の音量を調節します。このスライダーは、キーボード・トラックには影響せず、2 つのシーケンサー・トラックを調節します。
- 初期設定では、[ASSIGN. SLIDER]でキーボード・トラックの音量を調節します。このスライダーの機能はユーザーが設定できますが(ユーザー・アサイナブル)、初期設定では Keyboard Expression パラメーターに割り当てられています。

[BALANCE]スライダー

2つの内蔵シーケンサー(Sequencer 1、Sequencer 2)の音量バランスを調節します。ソングの連続演奏で切り替わり時の音量調整が可能です。

- スライダーを一番左側に移動すると、Sequencer 1 が最大レベルに、Sequencer 2 が 0 になります。
- スライダーを一番右側に移動すると、Sequencer 1 が 0 に、Sequencer 2 が最大レベルになります。
- 中央の位置では、2 つのシーケンサーの音量が同じレベルになります。

Note:本機の電源をオンにするときは、ソングが小さな音量で始まらないように、このスライダーを中央の位置にします。

ヘッドホン端子

本機リア・パネルのヘッドホン端子(PHONES:ステレオ・ミニ)にヘッドホンを接続します。16 ~ 200Ω(50Ω 推奨)のインピーダンスのヘッドホンが使えます。

オーディオ出力

本機のサウンドを、内蔵スピーカーの代わりに外部アンプ・システムから出力することができます。レコーディングやライブ演奏時に便利なセットアップです。

オーディオ入力

他の電子楽器や、パワード・タイプではないミキサーからの出力、音響製品の出力などを本機リアパネルの入力端子(INPUT:ステレオ・ミニ)に接続します。ライン・レベルの入力端子ですので、マイクロホンを接続するには、専用のマイク・プリアンプかミキサーが必要です。

接続した機器のボリューム・コントロールで、本機への入力レベルを調節します。入力信号に歪み(クリッピング)が生じないよう注意してください。以下の要領で接続機器の音量を調節します。

- 本機から出力されるサウンドの音量が低い場合は、接続機器の出力レベルを上げてください。
- サウンドに問題なければ調節する必要はありません。
- 歪んだサウンドが聞こえる場合は、歪みが聞こえなくなるまで接続機器の出力レベルを下げてください。

MIDI 接続

本機に接続したマスター・キーボード、MIDI ギター、ウィンド・コントローラー、MIDI アコーディオン、デジタル・ピアノなどの外部 MIDI 機器から、本機のサウンドを鳴らすことができます。

1. 外部 MIDI 機器の MIDI OUT 端子と本機の MIDI IN 端子を、標準の MIDI ケーブルで接続します。
2. MIDI 機器の MIDI 送信チャンネルを選択します。MIDI アコーディオンなど、MIDI 楽器によっては複数チャンネルを使用して送信する機器もあります。
3. 本機上で、接続 MIDI 機器に一番適した MIDI セットアップを選択します。

ダンパー・ペダル

リア・パネルの DAMPER 端子に、ダンパー(サスティン)・ペダルを接続します。コルグ PS-1/PS-3 ペダル・スイッチ、または同等のものをお使いください。

デモ・ソング

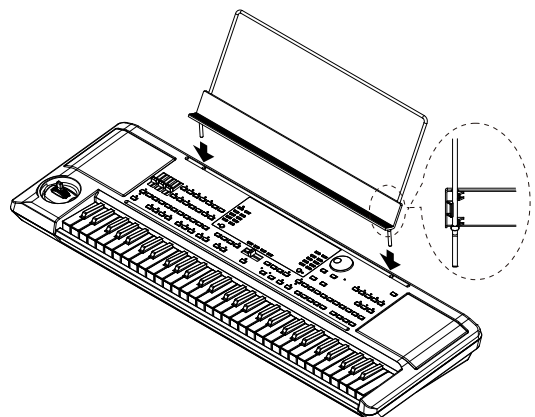
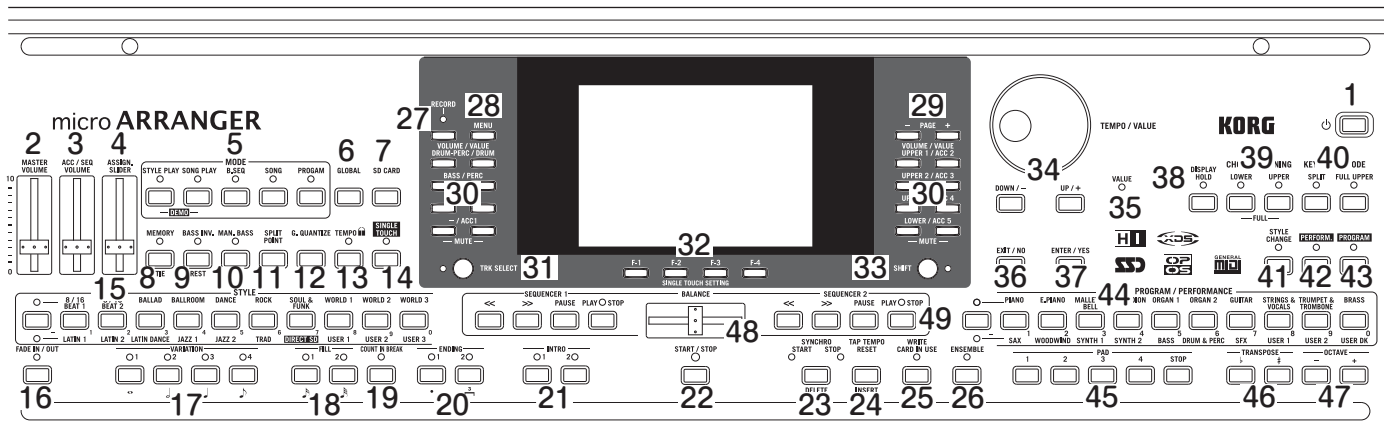
本機の音楽的表現力を理解いただくために内蔵のデモ・ソングをお聴きください。16 のデモ・ソングが収められています。

1. [STYLE PLAY]キーと[SONG PLAY]キーを同時に押します。それぞれのキーのインジケーターが点滅します。

   この時点でキーを何も押さないと、すべてのデモ・ソングが再生されます。
2. [PAGE − / +]キーで、デモ・モードの 2 つのページのいずれかを選択します。
3. VOLUME/VALUEキー[A]~[H]の中から、画面表示に合わせて聴きたいデモ・ソングに該当するキーを押します。

   該当のデモ・ソングが自動再生されます。
4. [START/STOP]キーを押してデモ・ソングの再生を止めます。
5. MODE セクションの任意のキーを押すとデモ・モードは終了します。

譜面立て

本機には譜面立てが付属されています。譜面立ての足の部分をフロント・パネルの 2 つの穴に差し込んでください。

3. フロント・パネル

1. 電源キー(⏻)

キーを押すたびに本機の電源を入れる、または切れます。

2. [MASTER VOLUME]スライダー

本機の全体的な音量を調整します。内蔵スピーカー、L/MONO、RIGHT出力端子とヘッドホン端子から出力する音量を調整します。

Warning: 音量の豊かなソング、スタイル、あるいはプログラムで信号のレベルが大きい場合、最大レベルで内蔵スピーカーの音が歪むことがあります。このようなときは[MASTER VOLUME]を少し下げてください。

3. [ACC/SEQ VOLUME]スライダー

伴奏トラックの音量(Style Play モード)、あるいはリアルタイム(キーボード)・トラックを除くソング・トラックの音量(Song、Song Play モード)を調整します。これは相対的な音量コントロールで、実質的な最大値は[MASTER VOLUME]スライダーの位置によって決まります。

4. [ASSIGN. SLIDER]キー

自在にプログラムできるスライダーです。初期設定ではキーボード・エクスプレッション・コントロールとして、リアルタイム(キーボード)・トラックの相対的な音量バランスを調節します。

5. [MODE]キー

本機の操作モードを呼び出します。選択すると他のモードは無効になります。

STYLE PLAY Style Playモードに入ります。スタイル(自動伴奏)の演奏、および音色まで割り当て可能な最大4つのリアルタイム(キーボード)トラックが鍵盤で演奏できます。

リアルタイム(キーボード)・トラックは、メイン・ページの右半分に表示されます。このメイン・ページを表示するには、Style Play モードの任意のページで[EXIT/NO]キーを押します。別のモードが選択されているときは、[STYLE PLAY]キーを押すと Style Play モードに入ります。[TRK.SELECT]キーの LED が点灯している場合は、[TRK.SELECT]キーを押してLEDを消灯させるとリアルタイム・トラックが表示されます。

本機の電源を入れると、このStyle Playモードが自動的に選択されます。

SONG PLAY Song Play モードに入ります。16 トラックのスタンダード MIDI ファイル(SMF)、".MID" あるいは ".KAR" のファイルを、SDカードから(内部メモリーに読み込ませず)直接再生できます。本機は 2 つのシーケンサーを搭載しており、2 つのソングを同時に再生し、それを[BALANCE]スライダーでミックスすることができます。

ソングトラックの他に、1 ～ 4 つのリアルタイム(キーボード)・トラックをソングに合わせて再生できます。リアルタイム(キーボード)・トラックは、メイン・ページの右半分に表示されます。このメイン・ページを表示するには、Song Play モードの任意のページで[EXIT/NO]キーを押します。別のモードが選択されているときは、[SONG PLAY]キーを押して Song Play モードに入ります。[TRK.SELECT]キーの LED が点灯または点滅している場合は、[TRK.SELECT]キーを 1 回または2回押してLEDを消灯させるとリアルタイム・トラックが表示されます。

B.SEQ Backing Sequence モードに入ります。リアルタイム・トラックやスタイル・トラックをベースにして新しいソングを録音したり、新規のスタンダード MIDI ファイルとして保存できます。

SONG Song モードに入ります。ソングの再生、録音、編集ができます。

PROGRAM Program モードに入ります。キーボード上で個々のサウンド・プログラムを再生、編集します。

DEMO [STYLE PLAY]と[SONG PLAY]の 2 つのキーを同時に押してデモ・モードを選択します。このモードでは本機が持つ音楽表現力を理解いただくためのデモ・ソングを再生します。

6. [GLOBAL]キー

さまざまなグローバル設定を行う Global Edit モードを呼び出します。この Global Edit モードは、動作中の操作モード画面の上にオーバーラップして表示されます。[EXIT/NO]キーを押すと、操作モード画面に戻ります。

7. [SD CARD]キー

ファイルやSDカードのさまざまな操作(ロード、セーブ、フォーマットなど)を行う Card Edit モードを呼び出します。この Card Edit モードは、動作中の操作モード画面の上にオーバーラップして表示されます。[EXIT/NO]キーを押すと、操作モード画面に戻ります。

8. [MEMORY (TIE)]キー

Lower とコード・メモリー機能を、オンまたはオフにします。このキーの状態と Memory Mode(Style Play モードのメニュー画面、page 24 - Pref: Ctl (Gbl))の設定の組み合わせによって、動作が異なります。

たとえば Memory Mode で "Chord + Lower" を選択した場合:

オン 次の音またはコードを弾くまでの間、スプリット・ポイントより左の音、そして自動伴奏のコードは、鍵盤から指を離してもメモリーに保存されます。

オフ 鍵盤から指を離すと同時に、音とコードは解除されます。

▶このキーは Song モードの**[TIE]**キーとしても使用します。

9. [BASS INV. (REST)]キー

ベースの転回機能をオンまたはオフにします。

オン 転回されたコードの最低音(押さえたコードの中で一番低い音)をコードのルート(根音)として常に検知します。アレンジャーに Am7/G や F/C のような複合コードを指定することができます。

オフ 最低音は他のコードの音と共に読み込まれますが、常にルート(根音)とは見なされません。

▶このキーは Song モードの**[REST]**キーとしても使用します。

10. [MAN. BASS]キー

マニュアル・ベース機能をオンまたはオフにします。

Note: [MAN. BASS]キーを押すと、ベース・トラックの音量が自動的に最大になります。[MAN. BASS]キーをオフにすると、ベース・トラックの音量が元の音量に戻ります。

オン ドラムとパーカッション・トラックを除く自動伴奏の演奏が止まり、鍵盤のLower 部分でベース・トラックをプレイできます。[CHORD SCANNING]セクションの[LOWER]キーを押すと、自動伴奏が再スタートします。

オフ スタイルによるベース・トラックが自動的に再生されます。

11. [SPLIT POINT(<)]キー ▶GBL

このキーを押したままにすると、Split Point ウィンドウが開きます。このウィンドウが開いている間にキーボード上でスプリット・ポイントにしたい鍵盤を弾くと、そのスプリット・ポイントが設定されます。設定できたら、[SPLIT POINT(<)]キーを離します。

選択したスプリット・ポイントの音符を保存するには、[GLOBAL]キーを押してから[WRITE]キーを押して、グローバル設定をメモリーに保存します。

▶このキーは、Backing Sequence モードと Song モードで[<]キー(1 つ前のイベント選択)としても使用します。

12. [G.QUANTIZE(>)]キー

このキーを押すと、グルーヴ・クォンタイズ(Groove Quantize)ウィンドウが開きます。ソング(シーケンサー1 のみ)に適用するリアルタイム・グルーヴの分解能(クォンタイゼーション)を選択できます。

▶このキーは、Backing Sequence モードと Song モードで[>]キー(1 つ後のイベント選択)としても使用します。

13. [TEMPO]🔒(テンポ・ロック)キー

テンポ・ロック機能をオンまたはオフにします。

オン 異なるスタイルやパフォーマンスを選択してもテンポは変わりません。ダイヤルや[TEMPO]キーを使ってマニュアルでテンポの調節もできます。

オフ 異なるスタイルやパフォーマンスを選択すると、それに設定されているテンポ値が自動的に選択されます。

14. SINGLE TOUCH キー

シングル・タッチ機能をオンまたはオフにします。

オン 任意のスタイルを選択すると、シングル・タッチ・セッティング(STS1)が自動選択され、そのスタイルのトラックやエフェクトと一緒にリアルタイム・トラック、エフェクトが変わります。

オフ 任意のスタイルを選択すると、そのスタイルのトラックやエフェクトを変更しても、リアルタイム・トラックは変わりません。

15. STYLE セクション(テンキー)

このセクションにあるキーを使ってスタイル選択(Style Selection)ウィンドウを開き、スタイルを選択します。詳細は、P.14「スタイルの選択」を参照してください。

左端のキーを繰り返し押して、スタイル・バンクを選択します。

上の LED が点灯
上列のスタイルが選択されます。

下の LED が点灯
下列のスタイルが選択されます。

スタイル・バンクと名称について
「8/16 BEAT 1」~「WORLD 3」スタイルと「LATIN 1」~「TRAD」スタイルは標準のスタイルとしてプロテクトがかかっています。このプロテクトは、解除することができます。

「DIRECT SD」スタイルは、SD カード上のスタイルを、メモリーへロードせずにそのまま使えます。

「USER 1」~[USER 3]スタイルには、SD カードから新しいスタイルをロードできます。

スタイル・バンクの各キーには 2 つのページ画面があり、それぞれ最大 8 つのスタイルがあります。[PAGE − / +]キーで希望のスタイルを探します。

スタイルが入っている元のバンクを表示させるショートカット
スタイルの入っている元のバンクを簡単に表示できます。[SHIFT]キーを押しながら、STYLE セクションの一番左のキーを押します。元のバンク名を表示したメッセージ・ウィンドウが開きます。[SHIFT]キーを離すとウィンドウが閉じます。

選択したバンクの各ページを表示するショートカット
選択したバンクのキーを押すたびに、そのバンクの各ページが順に表示されます。

▶STYLE セクションの各キーは、ページによってはテンキーの役割を果たすことがあります。

16. [FADE IN/OUT]キー ▶STYLE

スタイルを再生していないとき、このキーを押すと、スタイルはフェード・イン(音量がゼロから最大値に変化)しながら再生を始めます。

スタイルを再生しているとき、このキーを押すと、スタイルはフェード・アウト(音量が徐々に小さくなる)しながら再生を停止します。

スタイルを開始、停止するときに、[START/STOP]キーを押す必要はありません。

17. [VARIATION 1 ~ 4]キー ▶PERF ▶STYLE

選択しているスタイルの 1 ~ 4 のバリエーションを選択します。それぞれ 1 ~ 4 のバリエーションはパターンとサウンドが違います。

▶これらのキーは、Song モードの音符の長さを設定するキーとしても使用します。

18. [FILL 1 ~ 2]キー ▶PERF ▶STYLE

フィル・インを再生します。キーを 2 度押す(LED が点滅)とループ再生し、他のスタイル形式(「FILL」、「INTRO」、「VARIATION」など)を選ぶとループは終了します。

▶これらのキーは、Song モードで音符の長さを設定するキーとしても使用します。

19. [COUNT IN/BREAK]キー ▸PERF ▸STYLE

スタイルを再生していないときにこのキーを押してから[START/STOP]キーを押すと、先頭に1小節のカウント・インが入り、その後スタイルの再生が始まります。

スタイルがすでに再生中のときにこのキーを押すと、ブレイクが入ります。ブレイクはキックとクラッシュだけが先頭に入った空の1小節です。キーを2度押すと、このブレイクがループ再生され、他のスタイル形式(フィル、イントロ、バリエーションなど)を選択すると、ループを終了します。

20. [ENDING 1 ～ 2]キー ▸PERF ▸STYLE

スタイル再生中、このキーでエンディングを再生させせスタイルを停止します。このキーを押すと、エンディングに入りスタイルが停止します。スタイル停止中、このキーを押すとイントロの追加として機能します。

キーを2度押すとLEDが点滅し、エンディングをループ再生します。ループを終了するときは、別のスタイル形式(「FILL」、[INTRO]、「VARIATION」など)を選びます。

▸Songモードでは、[ENDING1]キーは**付点**キー、[ENDING2]キーは**三連符**キーとして使用します。

Note: エンディング1はコード進行のある短いシーケンス、エンディング2は最後に認識されたコードで再生されます。

21. [INTRO 1 ～ 2]キー ▸PERF ▸STYLE

アレンジャーをイントロ・モードに設定します。1つを選択してスタイルをスタートさせると、選択したイントロでスタートします。イントロのLEDはイントロの終わりで消灯します。

キーを2度押すとLEDが点滅し、イントロをループ再生します。ループを終了するときは、別のスタイル形式(「FILL」、「INTRO」、「VARIATION」など)を選びます。

Note: イントロ1はコード進行のある短いシーケンス、イントロ2は最後に認識されたコードで再生されます。

22. [START/STOP]キー

スタイルのプレイをスタート、ストップします。

SHIFT 本機またはMIDI OUT端子に接続された機器上で、音が鳴りやまないとき、コントローラーをリセットするときに、[START/STOP]キーと[SHIFT]キーとを同時に押します。

23. [SYNCHRO START/STOP]キー

シンクロ・スタート、シンクロ・ストップ機能をオンまたはオフにします。繰り返し押すと機能はSTART → START+STOP → OFFに変わり、それに合わせてLEDが点灯します。

[START]LED点灯
このLED点灯時、コード検知領域(通常はスプリット・ポイントより低音域側)でコードを弾くと、スタイルが自動的に再生します。コードの認識については、P.7「[CHORD SCANNING]セクション」を参照してください。

[START]LED＋[STOP]LED共に点灯
2つのLEDが点灯している状態で、鍵盤から指を離すと、再生しているスタイルが一時的にストップします。再びコードを弾き始めるとスタイルの再生も再スタートします。

[START]LED＋[STOP]LED共に消灯
シンクロ機能がオフになります。

▸このキーは、Backing Sequence モード、Song モードでは **[DELETE]**キーとして使用します。また、テキスト入力時に選択した文字を削除するときにも使います。

24. [TAP TEMPO/RESET]キー

このキーはスタイルの状況(Stop/Play)により機能が変わります。

Tap Tempo
スタイルが再生されていないときは、ビート(拍子)に合わせてこのキーを押し、テンポを決めます。最後に、打ち込んだテンポで伴奏がスタートします。

RESET
スタイルの再生中にこのキーを押すと、スタイルのパターンが1つ前の強拍に戻ります。

▸このキーは、Backing Sequence モード、Song モードでは **[INSERT]**キーとして使用します。また、テキスト入力時にカーソル位置で文字を挿入するときにも使います。

25. [WRITE/CARD IN USE]キー

Style Playモードでこのキーを押すと、Writeウィンドウが開きます。このウィンドウではトラックすべてをパフォーマンスに保存したり、リアルタイム(キーボード)・トラックをシングル・タッチ・セッティング(STS)に、また伴奏トラックをスタイル・パフォーマンスに保存したりします。

Global Edit モードでこのキーを押すと、グローバル・パラメーターがメモリーに保存されます。

▸このキーのLEDは **CARD IN USE** インジケーターとしても機能し、カード・スロット使用中に点灯します。

26. [ENSEMBLE]キー ▸PERF ▸STS

アンサンブル機能をオンまたはオフにします。オンのときは右鍵盤のメロディーに、左鍵盤で入力したコードに沿ってハーモニーが加わります。

Note:アンサンブル機能は、鍵盤がSplit モードでLower Chord Scanningモード設定時のみ動作します。

27. [RECORD]キー

Style Play モード時にこのキーを押すと、Style Record モードへ入ります。

Backing Sequencerモード時にこのキーを押すと、Song Recordモードへ入ります。

28. [MENU]キー

現在の操作モードやエディット・モードのメニュー・ページを開きます。メニュー・ページを開いたら、VOLUME/VALUE キーを押して対応するエディット・ページにジャンプしたり、[PAGE－/＋]キーで各ページを表示します。操作が済んだら[EXIT/NO]キーを押して、現在の操作モードのメイン・ページに戻るか、エディット・モードを終了します。

各ページがどこにどんな順序で表示されるかについては、各操作モード、エディット・モードをお読みください。

29. [PAGE －/＋]キー

[MENU]キーでメニュー・ページを表示させたら、このキーで操作モードやエディット・モードのエディット・ページを次々と表示させます。[EXIT/NO]キーを押すと、エディット・ページから、現在の操作モードのメイン・ページへ戻るか、Global Edit モードまたは Card Edit モードを終了します。

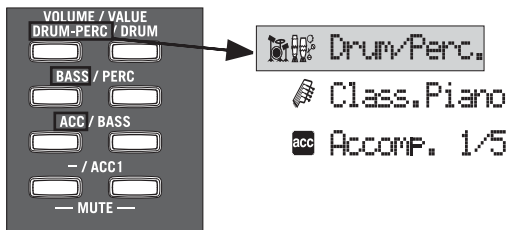
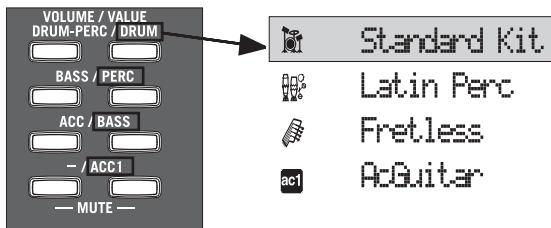
また、スタイル選択(Style Selection)ウィンドウ、プログラム選択(Program Selection)ウィンドウの各ページを選択することもできます。

30. VOLUME/VALUE(MUTE)キー[A]～[H]

▶PERF ▶STYLE ▶STS

本書では VOLUME/VALUE(MUTE)セクションで横に並んだ 2 つのキーをペアとして、それぞれVOLUME/VALUEキー[A]～[H]と呼びます。P.9「画面とユーザー・インターフェース」を参照してください。

対応するトラック名が VOLUME/VALUE キー[A]～[H]の上に表示されています。これらのキーの名前は、Style Play モードのメイン・ページで表示されるトラックに対応しています。

- VOLUME/VALUE キー[A]～[H]の左側のキーは、メイン・ページで使用し、リアルタイム・トラック、スタイル・トラックがグループに入っています。

- VOLUME/VALUE キー[A]～[H]の右側のキーは、スタイル・トラックのページで使用し、伴奏トラックを表示します。

P.11「記号とアイコン」を参照してください。
これらのキーを使って、画面に表示されるコマンドや機能を実行します。

項目の選択 画面上で対応する項目を選択します(例:トラック、パラメーター、コマンドなど)。左右のどちらのキーも同様に使えます。

音量の調節 任意のモードのメイン・ページでトラックを選択したら、VOLUME/VALUE キー[A]～[H]でそのトラックの音量を調節します。左のキーで音量を小さく、右のキーで音量を大きくします。

ミュート設定、解除
VOLUME/VALUE キーで、左右のキーを同時に押すと、該当トラックがミュートされ、もう1度両方同時に押すと、ミュートが解除されます。

SOLO 設定、解除
SHIFT [SHIFT] スタイル・プレイ、ソング・プレイ、Song モードのいずれかのとき、トラックの 1 つをソロにします。[SHIFT]キーを押しながら、ソロにしたいトラックに対応する VOLUME/VALUE キーを押します。

ソロ・モードを解除するには、[SHIFT]キーを押しながら、ソロ解除したいトラックに対応する VOLUME/VALUE キーを押します。

VALUE(バリュー)機能
該当するパラメーターの値を変更します。左のキーで値を小さく、右のキーで値を大きくします。

31. [TRK.SELECT(Track Select)]キー

選択した操作モードにより、さまざまなトラック・ビュー・モードを切り替えます。

STYLE PLAY モード
リアルタイム(キーボード)・トラックとスタイル・トラックを切り替えます。

SONG PLAY モード
メイン・ページ(リアルタイム / キーボード・トラック)、ソング・トラック 1 ～ 8、ソング・トラック 9 ～ 16 を切り替えます。

SONG モード メイン・ページ、ソング・トラック 1 ～ 8、ソング・トラック 9 ～ 16 を切り換えます。

[TRK.SELECT]キーの LED の状態で、現在のページ・ビューがわかります。

LED 消灯時 メイン・ページ(リアルタイム・トラックまたはソング・コントロール)

LED 点灯時 2 ページ目(スタイル・トラックまたはソング・トラック 1 ～ 8)

LED 点滅時 3 ページ目(ソング・トラック 9 ～ 16)

32. SINGLE TOUCH SETTING [F-1]～[F-4]ファンクション・キー

Style Play モードまたは Backing Sequence モードのメイン・ページが表示されているときは、シングル・タッチ・セッティングを選択します。各スタイルには最高4種類のシングル・タッチ・セッティング(STS)が含まれており、1 つのキーを押すだけで、リアルタイム・トラックに割り当てられている音色やエフェクトを、自動設定します。[SINGLE TOUCH]キーのLEDが点灯していると、スタイルを選択した時点で自動的に STS が選ばれます。

▶エディット・モードではファンクション・キーとして機能し、画面上の対応する項目を選択します。

33. [SHIFT]キー

このキーを押しながら他の特定のキーを押すと、そのキーの別の機能を呼び出すことができます。

34. [TEMPO/VALUE]セクション

ダイヤルと[DOWN/ –]、[UP/ +]キーで、テンポのコントロール、LCD 画面上で選択したパラメーター値の指定、また Song Select と Card Edit モードのページで、ファイル・リストのスクロールができます。

[VALUE]LED が点灯してこのセクションのステータスを示します。

ダイヤル ダイヤルを時計回りに回して、値やテンポを上げます。反時計回りに回して値やテンポを下げます。

SHIFT [SHIFT]キーを押しながらこのダイヤルを使うと、テンポのコントロールとしてのみ機能します。

[DOWN/ –]キー、[UP/ +]キー
[DOWN/ –]キーは値やテンポを下げ、[UP/ +]キーは値やテンポを上げます。

SHIFT [SHIFT]キーを押しながらどちらかのキーを押すと、テンポは選択したスタイルに保存されている値にリセットされます。

35. VALUE LED

ダイヤル、[DOWN/－]キー、[UP/＋]キーの機能を表示するインジケーターです。

LED 点灯時 ダイヤル、[DOWN/ －]キー、[UP/ ＋]キーは画面上で選択されたパラメーターの値を変更します。

LED 消灯時 ダイヤル、[DOWN/ －]キー、[UP/ ＋]キーはテンポをコントロールします。

36. [EXIT/NO]キー

メッセージに応答したり現在のウィンドウやモードを終了したりします。

- ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 画面に表示されたメッセージに対して「いいえ」と答えたいときに押します。
- メニュー・ページを閉じます。
- 現在の操作モードのメイン・ページに戻ります。
- Global Edit モードまたは Card Edit モードを終了し、現在の操作モードのメイン・ページに戻ります。
- スタイル、パフォーマンス、プログラムの各選択ウィンドウを閉じます。

37. [ENTER/YES]キー

メッセージに応答したり、現在の選択肢を確定したりします。

- 画面に表示されたメッセージに対して「はい」と答えるときに押します。
- コマンドを確定、実行します。

38. [DISPLAY HOLD]キー

ディスプレイ・ホールド機能をオンまたはオフにします。

オン プログラム選択(Program Selection)ウィンドウなどのように、一定時間を経過すると自動的に閉じるウィンドウを開くと、[EXIT/NO]キーを押すか任意の操作モード・キーを押すまでは、ウィンドウが閉じません。

オフ 一定時間を経過するか、ウィンドウ内で任意の項目を選択すると、ウィンドウが閉じます。

39. [CHORD SCANNING]セクション ▸PERF ▸STS

Style Play、または Backing Sequence モードでは、アレンジャー機能がコードを認識する方法を指定します。

[LOWER] コードはスプリット・ポイントより低音域側で検知されます。コードを形成するために必要なノートの数は、Chord Scanning モードの Chord Recognition パラメーターで指定します。

[UPPER] コードはスプリット・ポイントより高音域側で検知されます。アレンジャーにコードを認識させるときは、常に3音以上のノートを弾く必要があります。

フル(両方の LED が点灯)
コードは鍵盤全体で検知されます。アレンジャーにコードを認識させるときは、常に 3 音以上のノートを弾く必要があります。

オフ(両方の LED が消灯)
コードの検知はしません。[START/STOP]キーを押すと、ドラムとパーカッション・トラックの伴奏のみが再生されます。

40. [KEYBOARD MODE]セクション ▸PERF ▸STS

4 つのキーボード(リアルタイム)・トラックを鍵盤上に配置します。

[SPLIT] Lower トラックがスプリット・ポイントより低音域を使用し、UPPER 1、UPPER 2、UPPER 3 トラックがスプリット・ポイントより高音域を使用します。初期設定では、このキーボード・モードを選ぶと自動的に Lower Chord Scanning モードが選ばれます。

[FULL UPPER]
UPPER 1、UPPER 2、UPPER 3 トラックが鍵盤全体を使用します。Lower トラックは使用しません。初期設定では、このキーボード・モードを選ぶと自動的に Full Chord Scanning モードが選ばれます。

41. [STYLE CHANGE]キー

スタイル・チェンジ機能をオンまたはオフにします。

オン パフォーマンスを選ぶと、パフォーマンスに保存されているスタイル・ナンバーに従い、スタイルが変更されます。

オフ パフォーマンスを選んでも、スタイルとスタイル・トラックの設定は変更されません。リアルタイム(キーボード)・トラックの設定のみが変わります。

42. PERFORM.キー

このキーを押すと、[PROGRAM/PERFORMANCE]セクションでパフォーマンスを選択できます。

43. PROGRAMキー

このキーを押すと、[PROGRAM/PERFORMANCE]セクションでプログラムを選択し、選択中のトラックに割り当てられます。

44. [PROGRAM/PERFORMANCE]セクション

▸PERF ▸STYLE ▸STS

これらのキーを使って Program Select、または Performance Select ウィンドウを開き、プログラムまたはパフォーマンスを選択します(P.13「パフォーマンスの選択」、P.13「プログラムの選択」参照)。

左端のキーは上下のプログラム、またはパフォーマンス・バンクの列を選択します。これを繰り返し押して列を選択します。(上下の LED が順に点灯した後、もう 1 度このキーを押すと、両方の LED が消灯します。)

上の LED が オン
上の列のプログラム、またはパフォーマンスが選択されます。

下の LED がオン
下の列のプログラム、またはパフォーマンスが選択されます。

フロント・パネル上の**プログラム・バンク**は楽器名で、**パフォーマンス・バンク**は番号(1 ～ 10:0 = Bank 10)で識別されています。

プログラム・バンクと名称について

「PIANO」～「SFX」までは標準のサウンドで、直接変更することはできません。

Program モードでエディットしたサウンドは、「USER 1」、「USER 2」へライトすることができます。また、「USER 1」、「USER 2」のプログラムには、SD カードから新しいプログラムをロードすることができます。

「USER DK」には新しいドラム・キットをロードすることができます。

それぞれのプログラム・バンクは複数のページで構成されており、各ページには最大 8 つのプログラムがあります。[PAGE － / ＋]キーでページ画面を切り換えます。

パフォーマンス、プログラムの入っている元のバンクを表示させるショートカット

パフォーマンスまたはプログラムの入っている元のバンクを簡単に表示できます。[SHIFT]キーを押しながら、PROGRAM/PERFORMANCEセクションの一番左のキーを押します。元のバンク名を表示したメッセージ・ウィンドウが開きます。[SHIFT]キーを離すとウィンドウが閉じます。

選択したバンクの各ページを表示するショートカット

選択したバンクのキーを押すたびに、そのバンクの各ページが順に表示されます。

45. [PAD(1 ～ 4、STOP)]キー

▶PERF ▶STS

プログラム可能なパッドで、サウンド・エフェクトを再生することができます。繰り返し再生されるサウンドを停止するときは、[STOP]キーを押します。

各パッドは、それぞれ 1 ～ 4 のパッド・トラックに対応しています。

46. [TRANSPOSE]キー

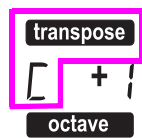
▶PERF ▶STYLE

本機全体を半音単位でトランスポーズします(マスター・トランスポーズ、Master Transpose)。トランスポーズの量は LCD 画面の右上部に表示されています。

両方のキーを同時に押すとマスター・トランスポーズがゼロになります。

Note: マスター・トランスポーズは Drum モードに設定されたトラック(ドラム、パーカッション・トラックを他のモードに変えたとしても)には影響がありません。

[♭] マスター・トランスポーズを半音下げます。

[#] マスター・トランスポーズを半音上げます。

47. [OCTAVE]キー

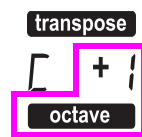
▶PERF ▶STYLE ▶STS

選択したトラックを、1オクターブ単位(12半音、最大 2 オクターブ)でトランスポーズします。オクターブのトランスポーズ量は、LCD 画面の右上部に表示されています。

[−]と[+]キーを両方押すと、オクターブ・トランスポーズがゼロになります。

Note: オクターブ・トランスポーズは、Drum モードに設定されたトラック(ドラム、パーカッション・トラックを他のモードに変えたとしても)には影響がありません。

[−] 選択したトラックを 1 オクターブ下げます。

[+] 選択したトラックを 1 オクターブ上げます。

48. [BALANCE]スライダー

Song Play モードで、内蔵の 2 つのシーケンサーの音量バランスをとります。スライダー位置が左端にあるときは SEQUENCER 1 だけが聞こえ、右端にあるときは SEQUENCER 2 だけが聞こえます。中央にあるときは両方のシーケンサーが最大の音量で再生します。

49. [SEQUENCER 1/SEQUENCER 2] トランスポート・コントロール

本機には 2 つのシーケンサー(SEQUENCER 1、SEQUENCER 2)が搭載されており、それぞれにトランスポート・コントロールがあります。

[<<]、[>>] 巻き戻しと早送りです。ソングの再生中に使うと、前後に移動します。

1 度押すとソングの 1 小節前、または後に移動します。押し続けると、手を離すまでソングをスクロールします。

SHIFT Jukebox モード(SEQUENCER 1)で、[SHIFT]キーを押しながらこのキーを押すと、Jukebox リストの前後のソングをスクロールします。

[PAUSE] ソングの現在位置で一時停止します。[PAUSE]キーまたは[PLAY/STOP]キーを押すと、ソングの再生を再開します。

[PLAY/STOP]

現在のソングを再生、停止します。ソングを停止すると、ソング・ポジションが 1 小節目(ソングの始め)に戻ります。

SHIFT Song Play モードで、[SHIFT]キーを押しながらこのキーを押すと、2 つのシーケンサーが同時にスタートします。

4. 画面とユーザー・インターフェース

画面には、本機の現在の状態(ステータス)と、パフォーマンス、エディット・パラメーター類が表示されます。パラメーターの選択は、画面両側のVOLUME/VALUEキー[A]～[H]を使います。また、各画面の最下行に表示されるコマンドの選択は、[F-1]～[F-4]キーを使います。パラメーターの値を変更するには、VOLUME/VALUE キー[A]～[H]に対応する位置にある左(−)右(+)のキーを使います。

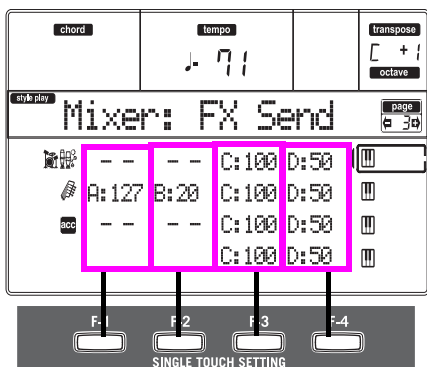
画面操作

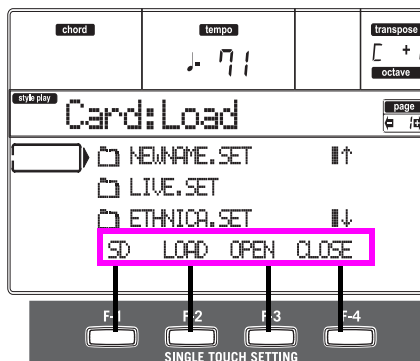
VOLUME/VALUE キー[A]～[H]と画面上のパラメーター

これらのキーを使って、その位置に対応する画面上のパラメーターやコマンドを選択したり、パラメーターの値の変更や、該当トラックの音量を変更します。

メイン・ページ表示時には、このキーでトラックを選択したり、トラックの音量の変更、トラックのミュートの設定 / 解除を行います。P.6「VOLUME/VALUE(MUTE)キー[A]～[H]」を参照してください。

[F-1]～[F-4]キー

エディット・ページ表示時に、下の例のように 4 種類のパラメーターが横に並んでいる場合にこのキーを使います。

まずVOLUME/VALUEキー[A]～[H]で行を選択し、[F-1]～[F-4]キーで列を選択します。

Card Edit モードでは、[F-1]～[F-4]キーで、画面最下行のページ・コマンドを選択します。

P.6「SINGLE TOUCH SETTING [F-1]～[F-4]ファンクション・キー」を参照してください。

[PAGE – / +]キー

現在表示されているエディット・ページの前後のページを選択します。スタイルまたはプログラムを選択しているときは、スタイルまたはプログラムの別のページを選択します。P.5「[PAGE – / +]キー」を参照してください。

[MENU]キー

現在の操作モードまたはエディット・モードのメニュー・ページを開きます。メニュー・ページでは VOLUME/VALUE キー[A]～[H]で、ジャンプ先のエディット・セクションを選択します。

[TRK.SELECT]キー

各操作モードに含まれているトラック数は異なります。

Style Play モード

リアルタイム・トラック:4、スタイル・トラック:8、パッド:4

Song Play モード

リアルタイム・トラック:4、ソング・トラック:16x2、パッド:4

Backing Sequence モード
リアルタイム・トラック:4、スタイル・トラック:8、パッド:4

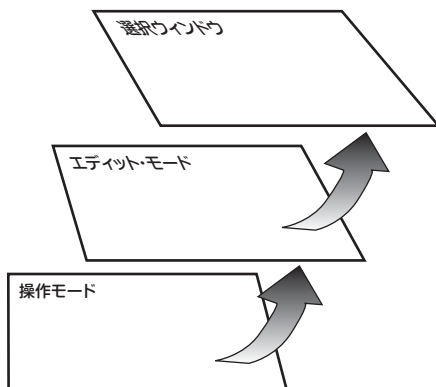
Song モード ソング・トラック:16

画面では 1 度に最高 8 つのトラックまでを表示できます。トラック数がそれ以上ある場合は、[TRK.SELECT]キーで残りのトラックを表示させます。たとえばStyle Playモードでは、このキーを押すと、リアルタイム・トラックとスタイル・トラックの計 8 つのトラック表示から、残りのトラックの表示に切り替わります。

インターフェースの構造

本機の複数機能をコントロールするオペレーティング・システムによって、ユーザー・インターフェースも「階層状」のレイヤー構造になっています。このレイヤーは常にアクティブ(有効)であり、一番下の階層から以下の順で重なっています。

- 操作モード
 (Style Play、Backing Sequence、Song Play、Song、Program)
- エディット・モード
 (Global Edit、Card Edit)
- 選択ウィンドウ
 (Style Selection、Song Selection、Program Selection、Performance Selection)

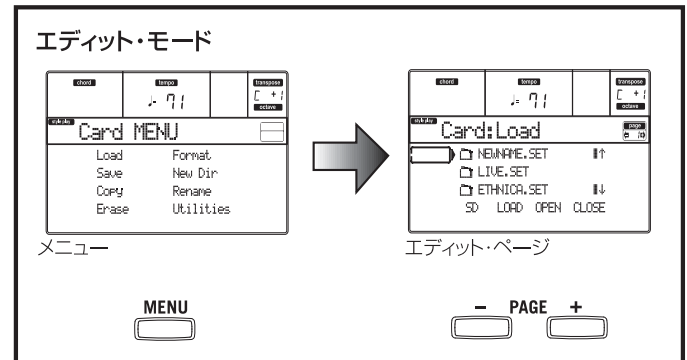
エディット・モードに入ったり、ページを選択したりしても、現在の操作モードはバックグラウンドで作動しています。

操作モード
(下図を参照してください。)一番下の階層である操作モードは常にアクティブ(有効)になっています。

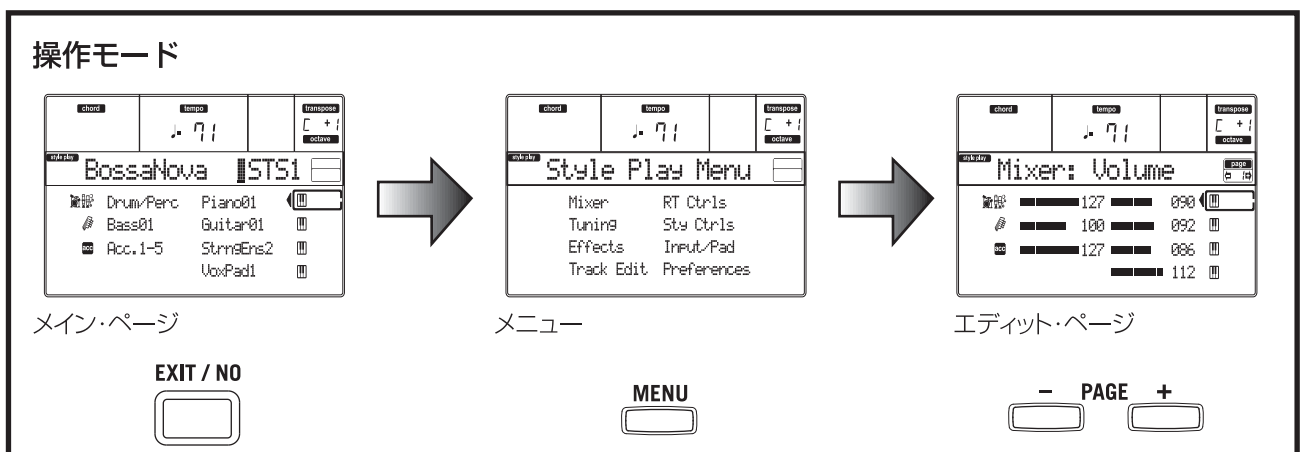
現在の操作モードは、MODE セクションの[STYLE PLAY]、[B.SEQ]、[SONG PLAY]、[SONG]、[PROGRAM]の各キーのインジケーターの点灯でわかります。画面上にもそのモードのアイコンが点灯します。

操作モードのインターフェース画面は、メイン・ページ(スタイル、ソング、プログラムなどを再生するページ)、メニュー・ページ、複数のエディット・ページから構成されています。

[MENU]キーを押すとメニューが表示されます。[MENU]キーと[PAGE − / +]キーを使って、エディット・ページ間を切り替えます。[EXIT/NO]キーを押すとメイン・ページに戻ります。

エディット・モード
(下図を参照してください。)[GLOBAL]キーまたは[SD CARD]キーを押すと、現在の操作モードの上にエディット・モードの画面が表示されます。[EXIT/NO]キーを押すと、現在の操作モードに戻ります。

エディット・モードのインターフェースは、メニューと複数のエディット・ページから構成されています。[MENU]キーと[PAGE −/+]キーでエディット・ページ間を切り替えます。

選択ウィンドウ
STYLE セクション、または PROGRAM/PERFORMANCE セクションの任意のキーを押すと、選択ウィンドウが開きます。ウィンドウ内の項目を選択するか、[EXIT/NO]キーを押すと、ウィンドウは閉じます。

ただし、[DISPLAY HOLD]キーの LED が点灯している間は、項目を選択してもウィンドウは閉じません。[EXIT/NO]キーを押すとウィンドウが閉じ、ウィンドウの下に隠れていたページに戻ります。

メッセージ・ウィンドウ

エラーや誤操作を告げるメッセージが画面に表示されることがあります。

```
Not a Standard
MIDI File
```

[ENTER/YES]キーか[EXIT/NO]キーを押すと、このウィンドウが閉じます。

また、下図のように「Are you sure?(よろしいですか?)」と回答を求めるメッセージが表示されることもあります。

```
Are you sure?
ENTER=Ok, EXIT=Cancel
```

「はい」と答えるには[ENTER/YES]キーを、「いいえ」と答えるには[EXIT/NO]キーを押します。

記号とアイコン

カスタム画面に表示されるアイコンと記号は、パラメーターのステータスや画面内容を表示します。

 リアルタイム(キーボード)・トラック(UPPER 1 ～ 3、LOWER)

 ドラム・トラック(スタイル・トラック・ビュー)

 パーカッション・トラック(スタイル・トラック・ビュー)

 グループに入ったドラムとパーカッションのトラック

 ベース・トラック(スタイル・トラック・ビュー)

グループに入った伴奏トラック。グループに入った 5 つの伴奏トラック(ACC 1 ～ 5)を表示します。

伴奏トラック(スタイル・トラック・ビュー)

シーケンサー・トラック

 選択されたトラックまたはパラメーター。これが表示されているときは、その項目の編集ができます。

(アイコンなし) 該当トラックがミュートされており、キーボード上で再生できません。

グレー表示のパラメーター

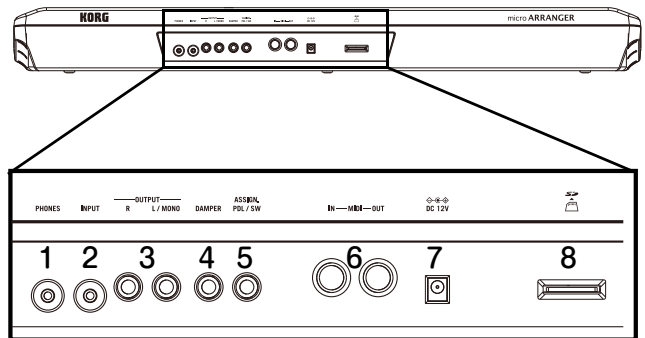
現在使用できないパラメーターはグレー表示(文字がはっきり表示されない状態)となります。以下は、通常のパラメーター表示と、使用できないグレー表示のパラメーター例です。

```
Bottom:G-1  Top:C8
```

明確な線で表示された文字

```
Bottom:G-1  Top:C8
```

グレー表示の文字

5. リア・パネル

1. [PHONES] ヘッドホン端子

ヘッドホンを接続するステレオ・ミニ端子です。インピーダンスが 16 ～ 200Ω(50Ω推奨)の範囲内のヘッドホンをお使いください。ヘッドホン・ディストリビューターを使うと、複数のヘッドホンが同時に使えます。

2. [INPUT]入力端子

他のキーボード、シンセサイザー、パワードタイプではないミキサーの出力、CD プレーヤー、テープデッキなどを接続するステレオ・ミニ端子です。入力信号は自動的に本体スピーカーと、出力端子、ヘッドホン端子に送られます。

3. [OUTPUT]出力端子

オーディオ信号をミキサーや PA システム、パワード・モニター、ステレオ・システムに出力するアンバランス型端子です。出力レベルの調整は[MASTER VOLUME]スライダーを使います。

4. [DAMPER]ペダル端子

コルグ PS-1、PS-3 や DS-1H のような**ダンパー・ペダル**を接続します。

5. [ASSIGN. PDL/SW]ペダル端子

コルグ EXP-2 や XVP-10(エクスプレッション・ペダル)のような**コンティニュアス・タイプのペダル**を接続します。

6. [MIDI]端子

MIDI 端子を介して、外部コントローラー(マスター・キーボード、MIDI ギター、ウィンド・コントローラー、MIDI アコーディオン等)、拡張音源モジュール、シーケンサーやエディターを、起動させた PC に接続します。

IN コンピューターやコントローラーから、MIDI データを受信します。この端子を、外部コントローラーやコンピューターの MIDI OUT 端子に接続します。

OUT 本機のキーボード、コントローラー、シーケンサーで生成した MIDI データを送信します。この端子をエクスパンダーやコンピューターの MIDI IN 端子に接続します。

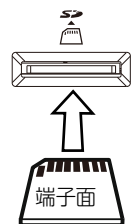
7. [DC 12V]端子

付属の AC アダプターを接続します。

8. SD カード・スロット

SD カード (SDHC カードを含む) の挿入はカチッと音がしてロックされるまでカード・スロットに挿入してください。取り出すときは、SD カードを一度押し込むと、カードが外に出てきます。

Note: SD カードの取り扱いについては、SD カードに付属の取扱説明書をよくお読みください。

Note: SD カードは挿入方向や表裏に注意し、確実に奥まで差し込んでください。また、無理な挿入はしないでください。

6. 基本操作

キーボード上での演奏

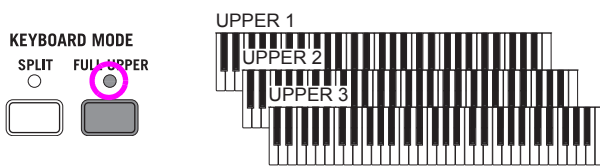
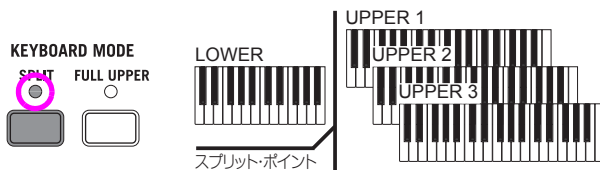
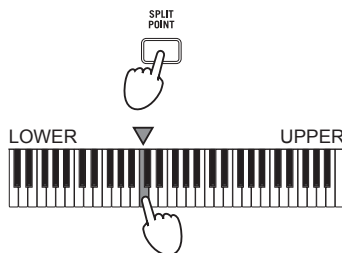
まずは鍵盤を弾いてみましょう。

リアルタイム･トラックのサウンドが聞こえます。

リアルタイム･トラックは、UPPER 1 ～ 3、LOWER の 4 種類があり、同時にすべて演奏することも、ミュート設定によっては一部だけを演奏することもできます。トラックのサウンドが聞こえない場合は、そのパートのミュート設定を確認してください。

トラックの配置にはいろいろな方法があります。

KEYBOARD MODE セクションでは、キーボード上でトラックを配置する方法を選択します。

- [FULL UPPER] キーを押すと、鍵盤全域で UPPER 1 ～ 3 のトラックが演奏できます。ピアノのように、**全鍵盤を同じ音色で弾く**ときは、[FULL UPPER] キーを押します。

- [SPLIT] キーを押すと、**スプリット･ポイント**より右側の鍵盤域で UPPER 1 ～ 3 のトラックが、また左側の鍵盤域で LOWER トラックが演奏できます。

- [SPLIT POINT] キーを押しながら任意の鍵盤を 1 音弾くと、**弾いた鍵盤の位置がスプリット･ポイント**となり、鍵盤域が UPPER パートと LOWER パートに分かれます。

設定したスプリット･ポイントのノート(音名)を保存するには、[GLOBAL] キーを押してから [WRITE] キーを押して、メモリーにグローバル設定として保存します。

トラックの選択、ミュート設定と解除、ソロ設定と解除

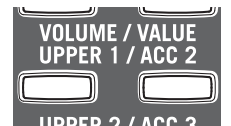
トラックの選択

VOLUME/VALUE キー [A] ～ [H] でトラックを選択します。

選択したトラックのアイコンが四角い枠で囲まれます。

選択したいトラックが現在画面に表示されていない場合は、[TRK.SELECT] キーでトラックのリストをスクロールして表示させます。

ミュート設定と解除

VOLUME/VALUE キー [A] ～ [H] でトラックのミュート設定、解除をします。たとえば、本機に電源を入れると表示されるメイン･ページで、UPPER 1 トラックをミュートさせたいときは、[E] キー ([UPPER 1/ACC2] キー) で、左右のキーを同時に押します。

ミュート / 再生状態は画面にアイコンで表示されます。

:	再生状態：トラックをキーボード上で再生できます。
(アイコンなし)：	ミュート状態：トラックはキーボード上で再生されません。

ソロ設定と解除

Style Play、Song Play、Song のいずれかのモードのとき、トラックの 1 つをソロ設定します。

[SHIFT] キーを押しながら、ソロ設定したいトラックに対応する VOLUME/VALUE キーで、左右のキーを同時に押します。

ソロ設定を解除するには、[SHIFT] キーを押しながら、ソロ設定したトラックに対応する VOLUME/VALUE キーで、左右のキーを同時に押します。

パフォーマンスの選択

パフォーマンスは、プログラム一式とキーボード・トラック、スタイル・トラックの設定をセットにしたもので、複雑な設定の組み合わせを瞬時に呼び出せます。

[STYLE CHANGE]キーの LED が点灯しているときは、パフォーマンスに別のスタイルを選択することもできます。

ソロ演奏しているときでも、プログラムではなくパフォーマンスを使うことをおすすめします。というのは、パフォーマンスを使えば、プログラム音色とともに適切なエフェクト、トランスポーズ設定、その他のパラメーターを選択できるからです。

データのタイプ		パラメーター
リアルタイム・トラック	UPPER 1, UPPER 2, UPPER 3, LOWER	Master Transpose, Program, Volume, Pan, Octave, Scale, Detune, Pitch Bend, Poly/Mono/Drum, Int/Ext, Damper, Dynamic Range, Joystick, C&D Effect Send level, Type, Pads, Parameters, Program parameters
スタイル・トラック	DRUM, PERCUSSION, BASS, ACC1, ACC2, ACC3, ACC4, ACC5,	Program, Volume, Pan, Octave, Detune, Pitch Bend, Poly/Mono/Drum, Int/Ext, Wrap Around, Keyboard Range, A&B Effect Send level, Type, Parameters, Program parameters Drum Mapping, Kick&Snare Assignation

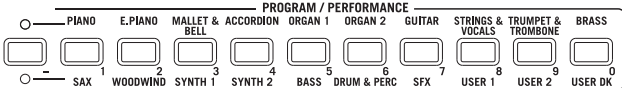
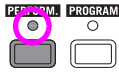
その他のパフォーマンス・パラメーターはグローバルに保存されます。

グローバル	Chord Recognition Mode, Memory Mode, Velocity Trigger, Lock

1. [PERFORM.]キーを押します。

PROGRAM/PERFORMANCE セクションでパフォーマンスを選択できるようになります。

2. PROGRAM/PERFORMANCE セクションの一番左のキーを押して、10個のバンク(1～10)の上の列を選択するか(上の列の LED が点灯)、下の列を選択します(下の列の LED が点灯)。

3. [1]～[0]キーの1つを押して、選択したいパフォーマンスが入った PROGRAM/PERFORMANCE バンクを選択します。

パフォーマンス選択ウィンドウが表示されます。各バンクにはそれぞれ 8 つのパフォーマンスが入っています。

最後に選択したパフォーマンス

4. VOLUME/VALUEキー[A]～[H]でパフォーマンスを選択します。

5. [DISPLAY HOLD]キーの LED が点灯している場合は、[EXIT/NO]キーを押してこのウィンドウを閉じます。

[STYLE CHANGE]キー

パフォーマンスを選択すると、[STYLE CHANGE]キーの状態によってはスタイルが変更されます。(パフォーマンスを保存すると、その時点でのスタイル・ナンバーが常に保存されます。)

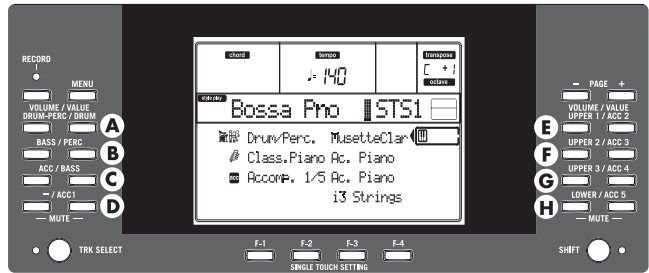
- [STYLE CHANGE]キーの LED が点灯中は、パフォーマンスに保存されているスタイルが選択されます。
- [STYLE CHANGE]キーの LED が消灯中は、スタイルは変更されません。

プログラムの選択

トラックが再生するプログラム(音色)を選択できます。プログラムを選択する前に、そのプログラムの割り当て先となるトラックを選択してください。

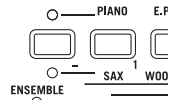
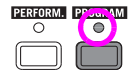
Note: スタイル・トラックに各種プログラムを割り当てるには、[TRK.SELECT]キーを押してスタイル・トラックを表示させます。グループに入ったトラック(ドラム / パーカッション、または ACC)が選択されているときにプログラムを選択すると、そのプログラムは最後に選択されたトラックに割り当てられます。

バリエーション、フィルなどのスタイル・エレメントにも異なるプログラムを割り当てられるので、別のスタイル・エレメントを選択すると、プログラムの選択内容が自動的にリセットされてしまうことがあります。

1. 画面の右側にある VOLUME/VALUE キー[E]～[H]で、プログラムを割り当てる先のリアルタイム(キーボード)・トラックを選択します。

2. [PROGRAM]キーを押します。

PROGRAM/PERFORMANCE セクションのキーでプログラムが選択できるようになります。

3. PROGRAM/PERFORMANCE セクションの一番左のキーを押して、プログラム・バンクの列(上列か下列)を選択します。

4. 使用したいプログラムが入った PROGRAM/PERFORMANCE バンクを選択します。(プログラム・バンクの各キーには楽器名がラベル表示されています。)

プログラム選択ウィンドウが表示されます。

最後に選択したプログラム　　選択トラック

5. 選択したバンクに入っている各プログラムを表示させるには、[PAGE – / +]キーを繰り返し押します。

   各バンクの画面ページは複数あり、それぞれ最高 8 個のプログラムが入っています。

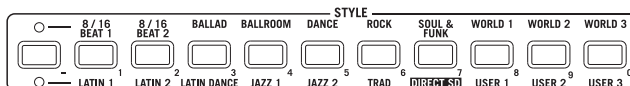
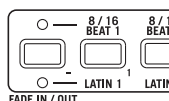
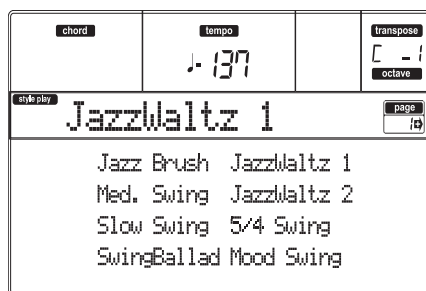
6. 使用したいプログラムを見つけたら、対応する VOLUME/VALUE キー[A]〜[H]で選択します。

7. [DISPLAY HOLD]キーの LED が点灯している場合は、[EXIT/NO]キーを押してウィンドウを閉じます。

スタイルの選択

スタイルとは、ドラム、パーカッションなどのリズム・パターンと、キーボードやリズムなどのバッキング・パターンをセットにしたものです。内蔵メモリーから選択するか、またはSDカードから直接選択することができます。

1. STYLEセクションの一番左のキーを押して、スタイル・バンクの列(上列か下列)を選択します。

2. 使用したいスタイルが入っているスタイル・バンクを選択します。

   スタイル選択ウィンドウが表示されます。

3. [PAGE – / +]キーを押してスタイル・ページを選択します。

   各バンクの画面は 2 ページあり、それぞれ 8 個のスタイルが入っています。

4. 使用したいスタイルを見つけたら、対応する VOLUME/VALUE キー[A]〜[H]で選択します。

   Note: 新しいスタイルは次の強拍で入ります。

5. [DISPLAY HOLD]キーの LED が点灯している場合は、[EXIT/NO]キーを押してウィンドウを閉じます。

[SINGLE TOUCH]キー

スタイルを選択すると、リアルタイム(キーボード)・トラックが変更される場合があります。

- [SINGLE TOUCH]キーの LED が点灯中は、シングル・タッチ・セッティング(STS)#1 が自動選択され、リアルタイム・トラックが変更されます。キーボードに割り当てられたプログラムとキーボード・モードも変更される場合があります。
- [SINGLE TOUCH]キーの LED が消灯中は、リアルタイム・トラックは変更されません。

シングル・タッチ・セッティング(STS)の選択

シングル・タッチ・セッティング(STS)にはリアルタイム(キーボード)・トラックの設定が入っています。各スタイルには 4 種類の STS があり、画面の下にある SINGLE TOUCH SETTING [F-1]〜[F-4]キーを押して呼び出します。

Note: STS を選択できるのは、Style Play モードか Backing Sequence モードのメイン・ページが表示されているときのみです。

キーボード・トラックの一括変更

キーボード・トラックに割り当てられたプログラムやエフェクトを、ワン・タッチで変更するには、パフォーマンスかシングル・タッチ・セッティング(Style Play モードのメイン・ページで、[F-1]〜[F-4]キーを使用)を選択します。

スタイル、パフォーマンス、プログラムの入った元のバンクを表示させるショートカット

現在使っているスタイル、パフォーマンス、プログラムが元々入っているバンクを簡単に表示できます。[SHIFT]キーを押しながら STYLE セクション、または PROGRAM/PERFORMANCE セクションの一番左のキーを押します。元のバンクの名前を表示したウィンドウが開きます。[SHIFT]キーを離すとウィンドウが閉じます。

7. チュートリアル

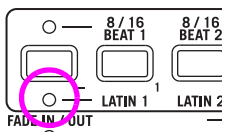
それでは実際に手順を追って、基本的な操作をマスターしましょう。

スタイルの演奏(自動伴奏)

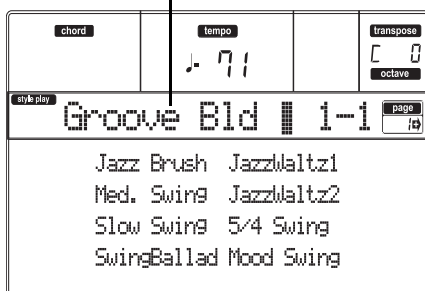
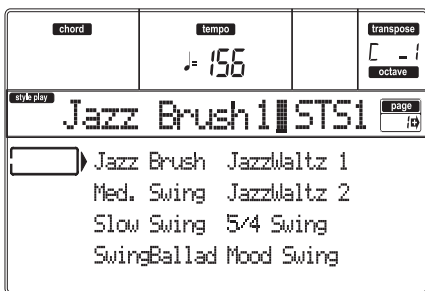
スタイルは、バンドで自分が得意のソロを演奏するときの、残りのメンバーのような役割を持っています。本機には 304 種類のスタイルが入っています。

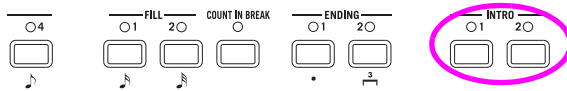
1. 好みの音楽スタイルを選択します。

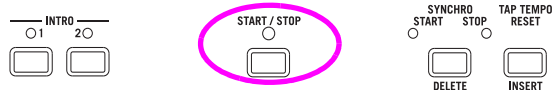
本機には豊富なスタイルが用意されていますが、ここではジャズ･スタイルの "Jazz Brush" を選んでみましょう。

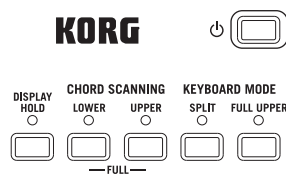
1. スタイルの2番目の列を選択します。STYLE セクションの一番左のキーを押して、キーの下にある LED を点灯させせます。

2. 次に、[4] "JAZZ 1" キーを押します。

スタイル選択ウィンドウが表示されます。

現在選択中のスタイル

3. VOLUME/VALUE キー[A]の左右どちらかのキーを押して、"Jazz Brush" を選択します。

2. イントロを呼び出します。

スタイルを再生する前に、イントロを入れることができます。[INTRO1]キーか[INTRO2]キーを押します。イントロ 1 では、コードを考えずに弾いても、弾いた音に則したコード･チェンジが入ります。イントロ 2 はコードを意識して弾きます。

3. スタイルを再生します。

任意のコードを弾いて[START/STOP]キーを押します。

スタイル再生が始まります。

[SPLIT]キーの LED が点灯中は、スプリット･ポイントより低い鍵盤域、つまり LOWER パートでコードが認識されます。コード･スキャニング･モードがUPPERまたはFULLのときは、コードを認識させるために3つ以上のノートを弾くことが必要です。

4. 好きなコードとメロディーを弾きます。

続けて弾いてください。本機にはたいへん優れたコード認識機能があることがわかるはずです。認識されたコードが画面表示されます。

5. ブレイクやフィルを入れます。

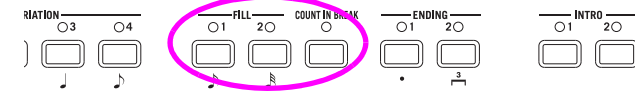
演奏中にたとえば 1 小節のブレイクを入れることができます。

[BREAK]キーを押してください。

1 小節分、演奏が止まり、また再開します。

今度は逆のことをやってみましょう。

[FILL1]キーまたは[FILL2]キーを押します。

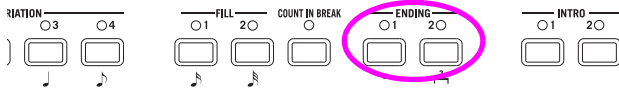
この場合は、無音部分がありません。奏者の代わりに本機が複雑なフレーズを弾いてくれます。フィル 1 は簡単なフィル、フィル 2 は、もう少し複雑です。バリエーション 1、2(簡単なバリエーション)を使用中は、[FILL1]キーを、またバリエーション3、4(複雑なバリエーション)を使用中は[FILL 2]キーを押すといいでしょう。

6. 別のバリエーションを選択します。

4 つの[VARIATION1 ～ 4]キーがあります。1 つのスタイルに対して 4 種類のバリエーションがあります。全部試してみてください。

フィルの後にバリエーションに入ることができます。[FILL1]か[FILL2]キーを押したらすぐに、[VARIATION1 ～ 4]キーの 1 つを押します。

7. スタイル再生を停止します。

[START/STOP]キーを押すと、スタイル再生が停止します。
別の方法は、

[ENDING1]または[ENDING2]キーを押してください。
エンディングが再生され、スタイルの最後が彩りよく仕上がります。エンディング1はすでにプログラムされているフレーズが再生され、エンディング2はリアルタイムにコードを入れながら演奏する必要があります。

シンクロ機能

両手で演奏しているときに、[START/STOP]キーなどを押す操作にわずらわされたくない、という人もいるでしょう。その場合[SYNCHRO]キーを使います。

1. スタイル再生が停止している間に[SYNCHRO]キーを押します。

[SYNCHRO]キーの START LED が点滅し、シンクロ・スタート機能がオンになります。

2. 鍵盤上でコードを弾きます。

本機にコードを認識させるため、まずコードを弾いてください。通常はスプリット・ポイントの左側でコードが認識されますが、CHORD SCANNING セクションの設定によって異なります。(P.7「[CHORD SCANNING]セクション」参照)
スタイルの再生が始まります。

3. 好きな方法でスタイルを止めます。

[START/STOP]キー、または[ENDING1]や[ENDING2]キーを押します。

リアルタイム演奏(自動伴奏なしの演奏)

本機は電源を入れると Style Play モードに入るので、すぐにリアルタイムで演奏ができます。

1. まずはキーボード上で演奏してみましょう。

電源を入れると、パフォーマンス 1-1 が自動選択されます。

パフォーマンス・バンクと番号

これでリアルタイム(キーボード)・トラックが設定されます。

このパフォーマンスがまだエディットされていなければ、鍵盤全域に UPPER 1 トラックが割り当てられ、グランドピアノのプログラムが選択されます。

4 つのリアルタイム・トラック(UPPER 1 〜 3 と LOWER)が使用できます。
UPPER トラックは鍵盤全域で演奏できます(KEYBOARD MODE セクションで[FULL UPPER]キーを押して選択してある場合)。または、LOWER トラックがスプリット・ポイントより左の鍵盤、UPPER トラックが右の鍵盤で演奏されます(KEYBOARD MODE セクションで[SPLIT]キーを押して選択してある場合)。

この最初のセットアップを変えたい場合は、別のパフォーマンスを選択するか、本章で後述するようにトラックの設定を変更し、その設定をパフォーマンス 1-1 に保存します。

2. 別のパフォーマンスを選択します。

[PERFORM.]キーを押して LED を点灯します。

点灯している場合は、PROGRAM/PERFORMANCE セクションの任意のキーを押し、画面の横にある VOLUME/VALUE キー[A]〜[H]でパフォーマンスを選択します。

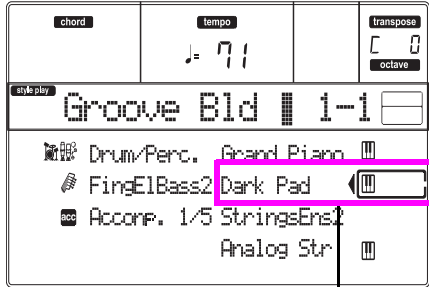
VOLUME/VALUE キー[A]〜[H]でパフォーマンスを選択

別のパフォーマンスを試してみましょう。全部で 160 のパフォーマンスがあります。

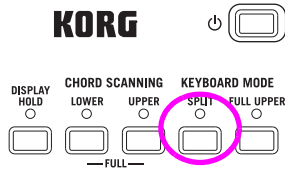
3. パフォーマンス 1-1(“StereoGrand”)をもう 1 度選択します。

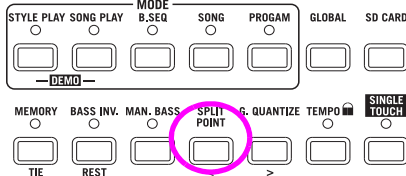
上記の要領で、パフォーマンス・バンク[1]キーを押してから、VOLUME/VALUE キーでパフォーマンス 1-1 を選択します。

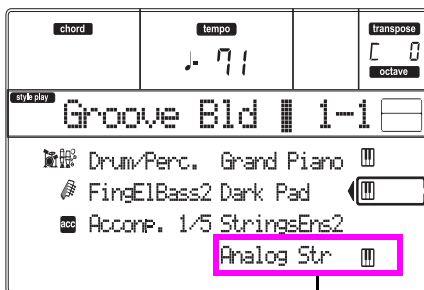
4. UPPER 2 トラックのミュートを解除します。

VOLUME/VALUEキー[F]で、左右のキーを同時に押します。UPPER 2 トラックが選択され、ミュートが解除されます。再生アイコンが表示され、選択トラックを示す枠で囲まれ、矢印が付きます。“Dark Pad” プログラムと “Grand Piano” が重なったサウンドになります。

VOLUME/VALUE キー[F]を押す

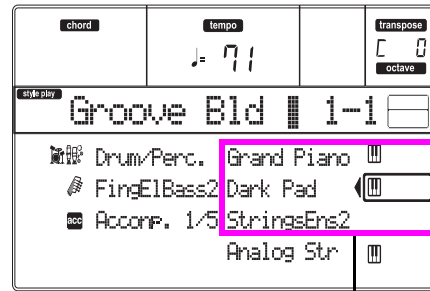
5. KEYBOARD MODE セクションで[SPLIT]キーを押して演奏します。

これで鍵盤領域が LOWER パート(左側)と UPPER パート(右側)に分割されました。LOWER パートでは “AnalogStr” プログラムの音色、UPPER パートでは “Grand Piano” と “Dark Pad” の音色が聞こえます。

6. スプリット・ポイントを変更します。

現在のスプリット・ポイントを変更したい場合は、[SPLIT POINT]キーを押しながら、希望のスプリット・ポイントに該当する鍵盤を弾きます。この設定はメモリーに保存できます。

7. 各トラックをミュート設定 / 解除します。

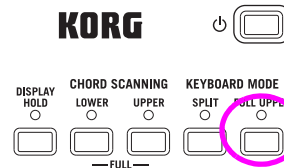
VOLUME/VALUE キー[H]で、左右のキーを同時に押すと、LOWER トラックがミュートされます。

VOLUME/VALUE キー[H]を押す

もう 1 度左右のキーを同時に押すと、LOWER トラックのミュートが解除されます。

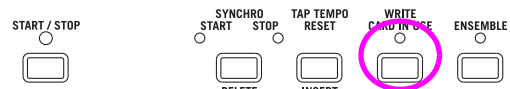
UPPER トラックのミュート設定も試してみましょう。VOLUME/VALUE キー[E]～[G]で、左右のキーを同時に押します。ミュート設定または解除したトラックの数によっては、サウンドが厚く豊かになったり薄くなったりします。

VOLUME/VALUE キー[E]～[G]を押す

8. リアルタイム・トラックの相対的な音量レベルを設定します。

リアルタイム・トラックの音量を設定するには、VOLUME/VALUE キー[E]～[H]を使います。まず、VOLUME/VALUE キーで任意のキーを押してトラックを選択します。次に、左右のキーのうち、右のキーを押すと音量が大きくなり、左のキーを押すと音量が小さくなります。

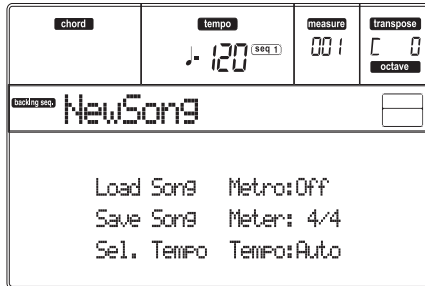
9. KEYBOARD MODE セクションで[FULL UPPER]キーを押します。

これで鍵盤全域で UPPER トラックが演奏できます。

10. パフォーマンスにリアルタイム・トラックの設定を保存します。

希望のサウンドになったら、[WRITE]キーを押してパフォーマンス、シングル・タッチ・セッティング(STS)、またはスタイル・パフォーマンスにトラック設定を保存します。リアルタイム・トラックの保存にはパフォーマンスが便利です。

ソングの録音（スタイルとリアルタイム演奏を同時に録音）

Backing Sequence モードでは Style Play モードの機能を最大限に利用して、新しいソングを簡単、効率的に録音できます。レコーダーをセットしてスタイル再生と一緒にライブ演奏すれば、ソングが瞬く間にできあがります。

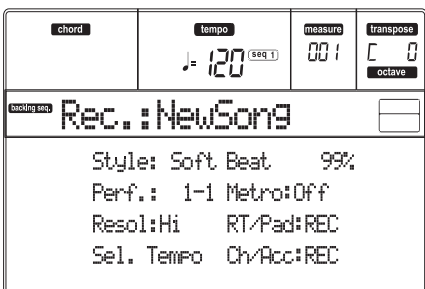
1. Backing Sequence モードに入ります。

[B.SEQ]キーを押してBacking Sequenceモードに入ります。リアルタイム・トラックは、Style Play モードで選択したまま変わっていません。

これがバッキング・シーケンスのプレイ・ページで、ソングをロード、プレイ、保存するところです。

2. [RECORD]キーを押します。

リアルタイム・レコーディング・モード（Realtime Recording）か
コード / 伴奏ステップ・モード（Chord/Acc Step Mode）を選択する画面に変わります。

3. リアルタイム・レコーディング・モード（Realtime Recording）を選択します。

VOLUME/VALUE キー[A]で、左右どちらかのキーを押します。
レコード（Rec）ページが表示されます。

4. 選択したスタイルが現在のバッキング・トラックには合わないと思ったら、別のスタイルを選択します。

スタイルの選択の簡単な手順は、以下のとおりです（詳しくは P.14「スタイルの選択」参照）。

1. STYLE セクションの一番左のキーを押して、スタイル・バンクの列（上列か下列）を選択します。
2. STYLE セクションのキーを押してスタイル・バンクを選択します。
3. [PAGE – / +]キーを押してスタイル・ページを選択します。
4. VOLUME/VALUE キー[A]～[H]で、希望のスタイルを選択します。

スタイル・バンク名とバンク・ナンバーが画面上のスタイル・パラメーターの後に表示されます。

5. パフォーマンスやシングル・タッチ・セッティングを必要に応じて変更します。

パフォーマンスのエディット方法の簡単な手順は、以下のとおりです（P.13「パフォーマンスの選択」および P.14「シングル・タッチ・セッティング（STS）の選択」参照）。

1. [PERFORM.]キーを押します。

   PROGRAM/PERFORMANCE セクションのキーでパフォーマンスを選択できるようになります。

2. PROGRAM/PERFORMANCE セクションのキーを押して、パフォーマンス・バンクを選択します。
3. VOLUME/VALUE キー[A]～[H]で、パフォーマンスを選択します。

シングル・タッチ・セッティング（STS）を選択するには：

- SINGLE TOUCH SETTING セクションのキーの１つを押します。

6. 録音にとりかかりましょう。

画面を見てわかるように、RT（リアルタイム・トラック）と Ch/Acc（コード / 伴奏トラック）が両方とも REC、つまり録音モードになっています。これは、スタイルとともにリアルタイムで演奏する内容がすべて録音される、ということです。

[START/STOP]キーを押します。
カウント・ダウンが始まり第１小節に入ったら、演奏を始めます。

7. ライブ演奏の要領で弾きます。

スタイルを再生しながら弾いているときとまったく同じ操作ができます。別のスタイル、パフォーマンス、STS、別のバリエーション、フィル、エンディングなどを必要に応じて選択します。

イントロから録音することもできます。その場合は、[START/STOP]キーを押して録音を開始する前に、どちらかの[INTRO]キーを押してください。

8. ソングを止めます。

ソングを止めるには、[START/STOP]キーを押すか、どちらかの[ENDING]キーを押します。ソングは止まりますが、録音はまだ続いています。このため、別のソングをそのまま続けて録音することもできます。（ステップ６から繰り返してください。）

録音を終了するには、次のステップへ進んでください。

9. 録音を終了します。

SEQUENCER1 セクションの[PLAY/STOP]キーを押します。バッキング・シーケンスのプレイ・ページが表示され、録音状態が解除されます。バッキング・シーケンス・トラック（RT と Ch/Acc）が再生状態（PLAY）に戻ります。

10. **録音したソングを聴いてみましょう。**

バッキング･シーケンスのプレイ･ページで、SEQUENCER1 セクションの[PLAY/STOP]キーを押すと、新しいソングが再生されます。

録音したソングに満足したら、Song モードに切り替えて編集したり、以下の要領で保存し、Song Play モードで再生したりします。

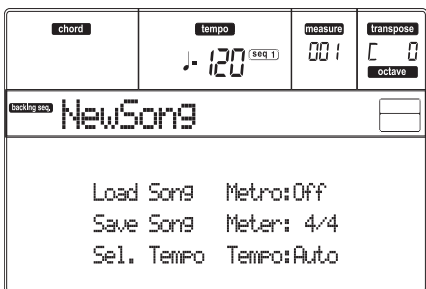
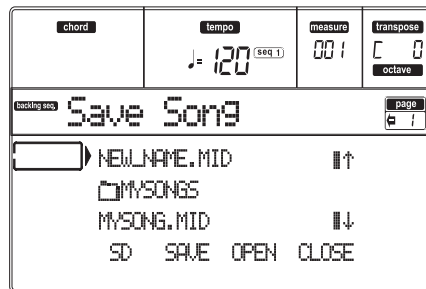
11. **録音したソングのトラックの 1 つを削除して録音し直したり、曲全体を録り直したい場合は？**

1. [RECORD]キーを押して録音モードに入ります。

2. 削除して録り直したいトラックを REC に設定します。
3. 録音中にモニターしたいトラックを PLAY に設定します。削除しないけれどモニターもしないトラックは、MUTE に設定します。
4. 録音を開始します。RT(リアルタイム･トラック)を録音する場合は、スタイルのコントロール類は使えません。
5. SEQUENCER1 セクションの[PLAY/STOP]キーを押してソングを終了し Back Sequence モードのプレイ･ページに戻ります。

12. **ソングを保存します。**

ソングを保存しないと、本機の電源を切ったとき、またはSong Playモードに切り替えたときに、ソングは消去されてしまいます。とっておきたいソングは、必ず SD カードに保存してください。

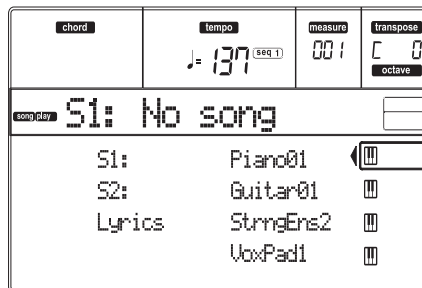
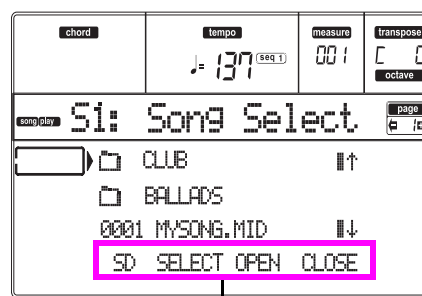
1. SD カードをカード･スロットに挿入します。
2. バッキング･シーケンスのプレイ･ページで、“Save Song” パラメーターを選択します。

3. [F-1]キーを押して SD カード(SD)を選択します。

4. VOLUME/VALUEキー[E]、[F](上へスクロール)または[G]、[H](下へスクロール)、あるいは TEMPO/VALUE セクションのダイヤル、[DOWN/ −]キーまたは[UP/ +]キーを使用して、ソングを保存する先のフォルダを画面の一行目に移動します。[F-3](OPEN)キーを押すとフォルダが開き、[F-4](CLOSE)キーを押すとフォルダが閉じます。
5. 新規ファイルを作成するので、｢NEW_NAME.MID｣というファイル名を画面の一行目に移動します。
6. ｢NEW_NAME.MID｣を選択した場合は、VOLUME/VALUE キー[A]で、左右どちらかのキーを押します。新しいファイルに名前をつけるよう、表示が出ます。

NEW_NAME.MID

[DOWN/ −]、[UP/ +]キーでカーソルを移動し、ダイヤルで文字を選択します。[INSERT]キーを押すとカーソル位置で文字が挿入され、[DELETE]キーを押すとカーソル位置の文字が削除されます。

7. 新しいMIDIファイルに名前を付けたら、[F-2](SAVE)キーを押して確定します。｢Are you sure?(よろしいですか？)｣というメッセージが表示されるので、[ENTER/YES]キーを押して確定するか、[EXIT/NO]キーで中止します。

ソングの再生

1. **ソングの入っているSDカードをカード･スロットに挿入します。**
2. **[SONG PLAY]キーを押してSong Playモードに入ります。**

3. **VOLUME/VALUE キー[A](S1: に該当)を押して、ソング選択(Song Selection)ウィンドウを開きます。**

ページ･コマンド

Note: メイン･ページから[PAGE +]キーを押して、ソング選択ウィンドウを表示することもできます。ウィンドウを閉じるには、[EXIT/NO]キーか[PAGE −]キーを押します。

4. **[F-1]キーを押して SD カード(SD)を選択します。**

   SD カードの内容が表示されます。

5. **TEMPO/VALUE セクションのダイヤル、[DOWN/ −]キーまたは[UP/ +]キー、または VOLUME/VALUE キー[E]〜[H]を使って、リストをスクロールし、希望のファイルを画面の一行目に移動します。**

   VOLUME/VALUE キー[E]〜[F]を押すとリストが上へスクロール、VOLUME/VALUE キー[G]〜[H]を押すとリストが下へスクロールします。

6. **希望のファイルがフォルダに入っている場合は(名前の先頭に📁が表示されているファイル)、フォルダを一行目に移動してから、[F-3]キーでOPENコマンドを選択します。**

0001 MYSONG.MID

フォルダを閉じて1つ上の階層に戻るには、[F-4]キーでCLOSEコマンドを選択します。

7. **希望のファイルを画面の一行目に移動させたら、[F-2]キーでSELECTコマンドを選択します。**

8. **Song Playモードのメイン・ページでS1:の行にソングが表示されたら、SEQUENCER 1 セクションの[PLAY/STOP]キーを押すと再生が始まります。**

S1:MySong

Note: [BALANCE]スライダーが右端に設定されていると、シーケンサー1の音量が最小になり、音が聞こえません。

シーケンサー2で別のソングを同時再生するには、VOLUME/VALUEキー[B](S2:に該当)を押します(シーケンサー2のソングをすでに選択してある場合は、このキーを2度押します)。

上記と同じ要領でシーケンサー2のソングを選択します。

SEQUENCER 2セクションの[PLAY/STOP]キーを押すと、シーケンサー2のソングの再生が始まります。

[BALANCE]スライダーで、シーケンサー1と2のソングのミックス・バランスを調整します。

SEQUENCER 1と2セクションの[PLAY/STOP]キーをそれぞれ押してソング再生を止めます。

8. 主な仕様

使用温度条件
0～40℃(結露させないこと)

鍵盤部
61鍵盤 C2～C7　ナチュラル・タッチ・ミニ鍵盤(ベロシティ対応)

電源
付属ACアダプター　DC12V

外形寸法(幅×奥行き×高さ)
873×277×91mm

質量
4.2kg

消費電力
9W

付属品
ACアダプター(DC12V: ⊖-◐-⊕)、ACアダプター用電源コード、譜面立て、クイック・スタート・ガイド、アクセサリー・ディスク

オプション
XVP-10:エクスプレッション/ボリューム・ペダル
EXP-2:フット・コントローラー
DS-1H:ダンパー・ペダル
PS-1、PS-3:ペダル・スイッチ

保証規定(必ずお読みください)

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類(ヘッドホンなど)は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より1ケ年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有料となります。
   - 消耗部品(電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど)の交換。
   - お取扱い方法が不適当のために生じた故障。
   - 天災(火災、浸水等)によって生じた故障。
   - 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
   - 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
   - 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
   - 本保証書の提示がない場合。

   尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より3ケ月以内に限り無償修理いたします。
3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、サービス・センターまでお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなることがありますので、あらかじめサービス・センターへご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■ お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

コルグmicroARRANGER　**保証書**

本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するものです。

お買い上げ日　　年　　月　　日

販売店名

アフターサービス

■ 保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■ 保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■ 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■ 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品(電子回路などのように機能維持のために必要な部品)の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。
また、外装部品(パネルなど)の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

■ 修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

■ 修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ ご質問、ご相談について

修理についてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!
この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です
This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

お客様相談窓口　TEL 03(5355)5056

● サービス・センター：〒168-0073
東京都杉並区下高井戸 1-15-12
TEL 03(5355) 3537
FAX 03(5355) 4470

KORG 株式会社コルグ
本社：〒206-0812　東京都稲城市矢野口4015-2
http://www.korg.co.jp/